

# 平成29年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる
施策の目標	来街者をやさしく迎えることで、誰もが安全に、安心して区内回遊を楽しめる「おもてなし」のまちとなるとともに、区民と来街者のさまざまな交流が生まれる「国際観光都市」となっています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					83.0%					85.0%
実績										

  

指標名	まち歩きガイドツアー参加者数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	4,500人				4,600人					4,800人
実績	4,465人									

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
まち歩きガイドツアーについては、認知度の向上と顧客リストを活用した積極的なPRにより、参加者数が増加した。 外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度については、平成29年度中に実施する観光関連調査において調査項目に加える。	H28	245,145
	H29	252,355
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	まち歩きガイドツアーは、毎年参加者が増加している。リピーターも多く、参加者満足度が高い。

## 4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
東京スカイツリーによる経済波及効果を区内全体の産業活性化に結び付ける上で、観光施策の推進は、本区における最重要テーマである。訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくるため、より効率的な運営を図る必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
まち歩きガイドツアーについては、認定ガイド制度によるガイドの質的向上及び新規参加者の増加に重点を置き、広くPRを行う必要がある。また、観光関連調査の結果を踏まえ、外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度の向上を目指す。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	まち歩き観光ガイド事業	21,965	まち歩き観光を推進し、区内回遊の促進を図ることで楽しめるまちをつくる。	4,440人	↗	現状維持
				4,465人		平成28年度
2	ユニバーサルツーリズムの推進	2,970	誰もが安全に、安心して区内回遊を楽しめる観光モデルコースを造成し、訪れる人をやさしく迎える。	0回	→	現状維持
				0回		平成28年度
3	「産業観光プラザ すみだまち処」管理運営費	164,648	観光客に本区の産業や観光についてわかりやすく紹介することで、訪れる人をやさしく迎える。	600,000人	↘	改善・見直し
				545,912人		平成28年度
4	観光案内所等の運営	28,020	観光客に観光情報を提供することで、訪れる人をやさしく迎える。	55,000人	↗	現状維持
				57,152人		平成28年度
5	商業エリアマネジメントの支援事業	3,500	訪日外国人を墨田区により多く呼び込み、飲食店や小売店等の利用を促進し、商業及び地域の活性化を図る。	75	↗	改善・見直し
				82		平成28年度
6	観光案内所の機能強化	23,892	案内所の機能強化により、訪れる人をやさしく迎える。	55,000人	↗	現状維持
				57,152人		平成28年度
7	案内機能の整備経費	150	観光客等への案内を充実させることで、訪れる人をやさしく迎える。	0基	→	改善・見直し(効果測定)
						平成28年度
8						
9						
10						
11						
12						

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	まち歩き観光ガイド事業					1		
事業概要	まち歩きガイドツアーの実施、まち歩きガイドマップ・観光案内高札等の作成					主管課・係 (担当)		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	まち歩き観光を推進し、区内回遊の促進を図ることで楽しめるまちをつくる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査（第24回）における「推進すべき観光施策」について、「観光案内標識の整備」と回答した区民が23.4%（8項目中6位）あり、区内の観光資源の活用について一定の需要があるとみられる。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	営利目的でない客観的な情報発信が求められるため、区による実施が妥当である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	ガイドツアー実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		450	H37	目 標	450	450	450	
				実 績	508			
			H32	H33	H34	H35	H36	
			目 標	450	450	450	450	
		実 績				450		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内外の観光客等が区内の観光資源を楽しむため、季節やイベントに応じた多様なガイドツアーを実施する必要がある。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	ガイドツアー参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4,800	H37	目 標	4,440	4,480	4,520	
			実 績	4,465				
		H32	H33	H34	H35	H36		
		目 標	4,600	4,640	4,680	4,720		
	実 績				4,800			
指標の選定理由及び目標値の理由								
ガイドツアーの認知度を向上させ、参加者を着実に伸ばすことが望ましいため								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	21,965							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 ほぼ横ばいである。				

<b>1 必要性・妥当性</b>								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
まち歩き観光は区内回遊促進の重要施策である。								
<b>2 有効性・適格性</b>								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	有効性 適格性			
参加者は増加しており、リピーターも多いことから、事業としての更なる伸びが見込める。		5	5	5	5			
<b>3 効率性・経済性</b>		<p style="text-align: center;">現状維持の上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
類似事業との統合等は難しく、経費も増大していない。								
<b>中間・最終年度の講評</b>	外国人観光客を対象としたガイドツアーの実施を検討する必要がある。							
<b>今後の方向性</b>	スカイツリーや両国に重点を置いた定期ツアーの継続や、季節・イベントに合わせた企画ツアーの実施を通じて、訪れた観光客の区内回遊促進を図る。併せてガイドツアーへの参加者の増加を目指すため、認定ガイド制度の継続実施等、ガイドの質の維持・向上を図っていく。							

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	ユニバーサルツーリズムの推進					2		
事業概要	国内外から多様な旅行者を迎えるに当たり、受入側の「心のバリアフリー」の推進を図るとともに、安心・安全な観光モデルコースを造成するなど、誰にでもやさしい観光地「すみだ」の実現を目指す。					主管課・係（担当）		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	誰もが安全に、安心して区内回遊を楽しめる観光モデルコースを造成し、訪れる人をやさしく迎える。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	多様な来訪者の増加による地域活性化							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	民間主導によるコース造成は費用対効果の観点から非常に難しい。オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、誰もが安全・安心に楽しめる観光地づくりを進める必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	ユニバーサルツアーの商品化				単 位	コース
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		5	31	目標 実績	0 0	2	3	5
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	誰にでもやさしい観光地「すみだ」の実現に向けた第一歩として、これまでになかったユニバーサルモデルコースをツアーとして商品化する。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	ユニバーサルツアーの参加者				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		500	32	目標 実績	0 0	100	200	300
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	500					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
造成したモデルツアーの参加者を成果の指標とする。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,970							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 新規事業のため皆増				

<b>1 必要性・妥当性</b>								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
ユニバーサル観光の推進により、本区への観光客の増加とイメージアップを図る。								
<b>2 有効性・適格性</b>								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
ユニバーサルマナー検定の実施により、職員等の知識向上を図ることができた。また、実態調査を実施することで障害者等のニーズを把握することができた。		5	5	5	5			
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
<b>判断理由</b>								
ソフト面（受入側の知識向上）と、ハード面（ユニバーサルデザインの状況調査）の両面から効率的に実施できている。								
<b>中間・最終年度の講評</b>	2年計画の1年目として、職員等の知識向上と障害者等の観光ニーズの把握をすることができた。							
<b>今後の方向性</b>	1年目の実態調査で把握した情報を基に、歩行弱者等が安心して楽しく観光ができるモデルコースを構築し、ツアーの商品化を図る。これにより、誰にでもやさしい観光地「すみだ」の実現に向けた第一歩を踏み出す。							

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	「産業観光プラザ すみだ まち処」管理運営費					3		
事業概要	東京スカイツリー®を訪れた観光客等に本区の産業・歴史・文化・観光等について紹介し、区内回遊を促進する。					主管課・係(担当)		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への関連性	観光客に本区の産業や観光についてわかりやすく紹介することで、訪れる人をやさしく迎える。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査(第24回)において、「推進すべき観光施策」について、「観光案内所の設置」と回答した区民が34.0%(8項目中2位)あり、高い需要がある。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	営利目的でない客観的な情報発信が求められるため、区による実施が妥当である。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	「歳時コーナー」における区内産業団体等による企画展実施回数				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		35	H37	目標 実績	25 29	27	28	29
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	30	31	32	33	34	35
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内産業団体等による様々な企画展を年度を通じて実施し、誘客を図る必要があるため							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		700,000	H37	目標 実績	600,000 545,912	600,000	600,000	600,000
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		650,000	650,000	650,000	650,000	700,000	700,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
国内外からの幅広い世代の利用促進、区内回遊促進を行う必要があるため								
財政面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	164,648							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 賃料等の必要経費を計上しているため予算は横ばいである。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
東京スカイツリー®を訪れる観光客等の区内回遊を促進する必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
スカイツリーの開業ブームが落ち着き、今後は「すみだまち処」を目的として訪れてもらえるよう、魅力ある施設づくりを行っていく必要がある。		5	4	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
5年間運営を行った実績に基づき、より効率的な運営を行っている。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	より効果的、効率的な事業運営を目指し、運営事業者及び関係部署、区内産業団体等と連携、調整を図る必要がある。				
<b>今後の方向性</b>	来場者数が一段落した今、来場者数を維持・向上するための施策の展開が必要である。また、来場者の区内回遊を更に促進させる仕掛けづくりが必要である。				



# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	観光案内所等の運営					4		
事業概要	本区を訪れる観光客に対して観光情報等を提供し、区内観光を便利で快適に楽しんでいただくため、観光案内所等の運営を行う。					主管課・係 (担当)		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	観光客に観光情報等を提供することで、訪れる人をやさしく迎える。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「観光案内所の設置」と回答した区民が34.0%（8項目中2位）あり、高い需要がある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	営利目的でない客観的な情報発信が求められるため、区による実施が妥当である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	まち歩き案内処で配布した観光パンフレット数				単位	枚
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		80,000	H37	目標	70,000	72,000	73,000	74,000
				実績	74,250			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	75,000	76,000	77,000	78,000	79,000	80,000
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内ホテル等に設置しているまち歩き案内処で多くの観光情報を発信する必要があるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	観光案内所来所者数				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		60,000	H37	目標	55,000	56,000	56,500	57,000
実績				57,152				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		57,500	58,000	58,500	59,000	59,500	60,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
本区を訪れ、目的を持って観光情報の収集をし、区内回遊する人を着実に増やすことが必要であるため								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	28,020							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 削減傾向である。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
東京スカイツリー等からの来街者に対し、区内観光の回遊性を高める適切な観光案内が求められているため					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
増加する外国人観光客にも対応しており、有効性は上昇している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
観光振興プランを具体化する主体として専門的な知識を要することから、他事業との統合はできない。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	外国人旅行者のニーズに対応するため、多言語化された情報発信機能の充実を図っていく必要がある。				
<b>今後の方向性</b>	観光案内機能の充実は区内回遊を促進する上で極めて重要である。区を来訪する観光客が必要とする情報を的確に提供するため、運営を委託している観光協会と連携しながら、区内回遊を更に促進する仕組みづくりを推進していく。				

## 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	商業エリアマネジメントの支援事業					5		
事業概要	区内の飲食店、小売店、サービス店等の訪日外国人客の受け入れ体制を整えることで、商店を利用しやすくし、商業の活性化を図る。（実施事業：英語メニュー作成支援、英語メニューのある店舗の発掘、飲食店に対するインバウンド対策講座の実施、ウェブサイトの運営）					主管課・係（担当）		
						産業振興課産業振興担当		
						03-5608-6187		
施策への 関連性	すでに外国人の来街者であふれている区全域に位置する商店に対し、早急にインバウンド対策を展開し、商業の活性化を図っていく必要があるため。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	外国人を顧客として意識できるようになることで、商業の活性化を促す。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	訪日外国人客が多く訪れる区内に位置する商店に対し、区がインバウンド対策を展開していくことで、地域への経済効果が期待できるため。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	英語ウェブサイトの閲覧回数（3月）				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		2,800	37	目標	1,000	1,200	1,400	1,600
				実績	1,049			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	1,800	2,000	2,200	2,400	2,600	2,800
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内の飲食店、小売店、サービス店等の紹介を英語のみで行っているウェブサイトの閲覧回数から、訪日外国人の本事業に対する需要が把握できるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	インバウンド対策講座の参加者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		75	75	目標	75	75	75	
			実績	82				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		75	75	75	75	75	75	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
訪日外国人客を受け入れる環境を徐々に整えるために、一定数のインバウンド対策講座への参加者を確保する必要があるため。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	3,500							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
区内商店が訪日外国人を顧客として認識できるようになることで、商業の活性化が期待できる。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
専門的な業者に外部委託することにより、効率的な事業の運営が可能である。		5	5	4	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
専門的な業者に外部委託することにより、効率的かつ専門的なノウハウの活用が可能となる。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	英語メニューの作成や飲食店に対するインバウンド対策講座等の実施により、外国人対応が可能な店舗が増加した。				
<b>今後の方向性</b>	オリンピック・パラリンピックを前に、外国人来街者が増加することが見込まれ、受け入れ体制をより一層整える必要があるため、本事業の更なる拡充・改善・効率化を目指す。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	観光案内所の機能強化					6		
事業概要	観光案内所の機能強化を行い来場者の増加と区内回遊の促進を図る。					主管課・係 (担当)		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	案内所の機能強化により、訪れる人をやさしく迎える。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	住民意識調査（第24回）において、「推進すべき観光施策」について、「観光案内所の設置」と回答した区民が34.0%（8項目中2位）あり、高いニーズがある。機能強化についてもこのニーズに沿ったものと考えられる。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	観光案内所の運営を区が行っているため、機能強化についても一貫して区が実施することが妥当である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	観光案内所の移転数				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		2	H29	目 標	1	1		
				実 績	1			
			H32	H33	H34	H35	H36	
			H37					
		目 標						
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光客等にとって、より利便性の高い場所に観光案内所を移転することが、来場者の増加や区内回遊促進につながると考えられるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	観光案内所来所者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
60,000		H37	目 標	55,000	56,000	56,500		
			実 績	57,152				
		H32	H33	H34	H35	H36		
		H37						
	目 標	57,500	58,000	58,500	59,000	59,500		
	実 績					60,000		
指標の選定理由及び目標値の理由								
本区を訪れ、目的を持って観光情報の収集をし、区内回遊する人を着実に増やすことが必要であるため								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	23,892							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 観光案内所移転にかかる費用であり、平成29年度で終了予定である。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
東京スカイツリー等からの来街者に対し、区内観光の回遊性を高める適切な観光案内が求められているため					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
増加する外国人観光客にも対応しており、有効性は上昇している。		5	5	5	5
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>現状維持の上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
観光振興プランを具体化する主体として専門的な知識を要することから、他事業との統合はできない。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	外国人旅行者のニーズに対応するため、多言語化された情報発信機能の充実を図っていく必要がある。				
<b>今後の方向性</b>	観光案内機能の充実は区内回遊を促進する上で極めて重要である。本事業は統合するが、区を来訪する観光客が必要とする情報を的確に提供するため、運営を委託している観光協会と連携しながら、区内回遊を更に促進する仕組みづくりを推進していく。				

# 平成29年度 事務事業評価シート

施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位					
事務事業	案内機能の整備経費					7		
事業概要	観光案内板等を整備し、国内外の観光客等に向けた観光案内を充実させることで回遊性・利便性を高める。					主管課・係 (担当)		
						観光課観光担当		
						03-5608-6500		
施策への 関連性	観光客等への案内を充実させることで、訪れる人をやさしく迎える。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	平成25年度に実施した住民意識調査で、「観光施策として効果的である」と23%の区民が回答しているため、一定の需要があると判断する。							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
	代替可能性：なし 内容の統一を図りつつ、計画的に整備する必要があることから、区が実施する必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	北斎ゆかりの案内板の補修済み基数				単 位	基
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		61	H30	目標 実績	20 20	40	61	— —
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—
		指標の選定理由及び目標値の理由						
	指標の選定理由：経年劣化が進んだ案内板の補修を行うことで、観光客等の利便性が高まるため 目標値の理由：平成28年度から3か年計画で全ての高札の補修を行うため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	電柱を活用した案内板の設置				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		—	—	目標 実績	— 0基	— —	— —	— —
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	—	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—	—
		指標の選定理由及び目標値の理由						
本事業は平成24年度から実施してきた。 新規の設置は平成26年度以降行っておらず、今後も設置の予定はない。 補修についても、電柱の地中化に伴い撤去されていく傾向にあることから、今後の実施予定はない。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	150							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 29年度より「まち歩き観光ガイド事業」に移行して実施している。この科目への予算措置なし				



<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
区として、内容の統一を図りつつ、計画的に整備する必要がある。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
観光案内情報を充実させることで、観光客等の回遊性・利便性の向上につながるため		5	5	3	3
<b>3 効率性・経済性</b>		効果測定及び改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
<b>判断理由</b>					
電柱等を活用した案内板については、低コストで導入できるため効率的であったが、電柱の地中化が進められてきている状況があるため、今後新規の設置及び補修は行わない。					
中間・最終年度の講評	平成28年11月、北斎美術館がオープンしたことに伴い、区内外で北斎に対する関心が高まっており、ゆかりの案内の補修を進めることで観光客の利便性向上等に貢献した。				
今後の方向性	平成29年度より、「まち歩き観光ガイド事業」へ移行している。				